

平成 28 年度
大刀洗町住民協議会 答申
「防災について」

平成 29 年 3 月 12 日
大刀洗町住民協議会

大刀洗町長 安丸国勝 様

昨年10月から始まった住民協議会は今年1月まで4回開催し、このたびの答申を出すことになった。この間、資料作成や協議会時における説明や質疑応答の対応を頂くなど町長をはじめ職員の方々に、まずもって御礼を申し上げたい。

住民協議会の5つ目のテーマとして私たちに諮問されたのは「防災」。大刀洗町は、これまで大規模な災害が少なく安全な町だと多くの住民が思っている。そのこと自体はとても良いことだが、近年の地震や風水害の状況を見ていると、今後は全国どこでも災害が起こりうると思えなければいけない。

そのような中で、私たち大刀洗町民の防災に対する意識は必ずしも高くないということが協議会での議論でも感じられた。第1回の協議会で、何を考えれば良いのかわからないという声が委員から聞こえていたことから言えるだろう。

今回のテーマは、過去の協議会で取り上げられたものよりも、住民の関心は高くなかったと思うが、あえて議論することによって必要性を感じられるという意味で、今回のテーマ設定は良かったのではないだろうか。実際にこの4回の協議会を通して、日常生活の中に防災の視点を入れていくことの大切さや、備蓄や避難場所の確認など身近なところから始めることの必要性などが見えてきた。「自分事化」という本協議会の目的にも叶っているのではないかと感じる。

また、第2回協議会には、ナビゲーターとして、前防災担当大臣の河野太郎衆議院議員が来られた。河野議員が防災大臣だった時に起きた熊本地震への対応やそこから見える住民の備えなどの話を聞くことができたことは、大変貴重であった。

過去の協議会で出された答申に対する「進捗報告会」が先日開催されたことから、この取組みに対する大刀洗町の本気度が感じられる。また、住民協議会のOB会も立ち上げられ委員の意識も非常に高くなっている。行政と住民が一緒になってさらに満足度の高い町にしていきたいし、無作為抽出で選ばれた今回を機に、そのための取組みを私たちも行っていきたい。

平成29年3月12日

大刀洗町住民協議会

第1分科会 分会長 中島 栄作

第2分科会 分会長 藤野 直人

1. 住民協議会概要

昨年度に引き続き、平成 28 年度「住民協議会」を実施した。
委員、テーマ及び各回の議論は以下の通りである。

○委員

無作為に抽出し協議会委員の案内を送付した数	500 件
応募した委員（応募率）	35 人（7.0%）
各分科会の委員の数 （抽出とは別に高校生 4 人含む）	
・第 1 分科会	20 人
・第 2 分科会	19 人
	計 39 人

○テーマ及び各回の議論

テーマ：「防災について」

各回の議論

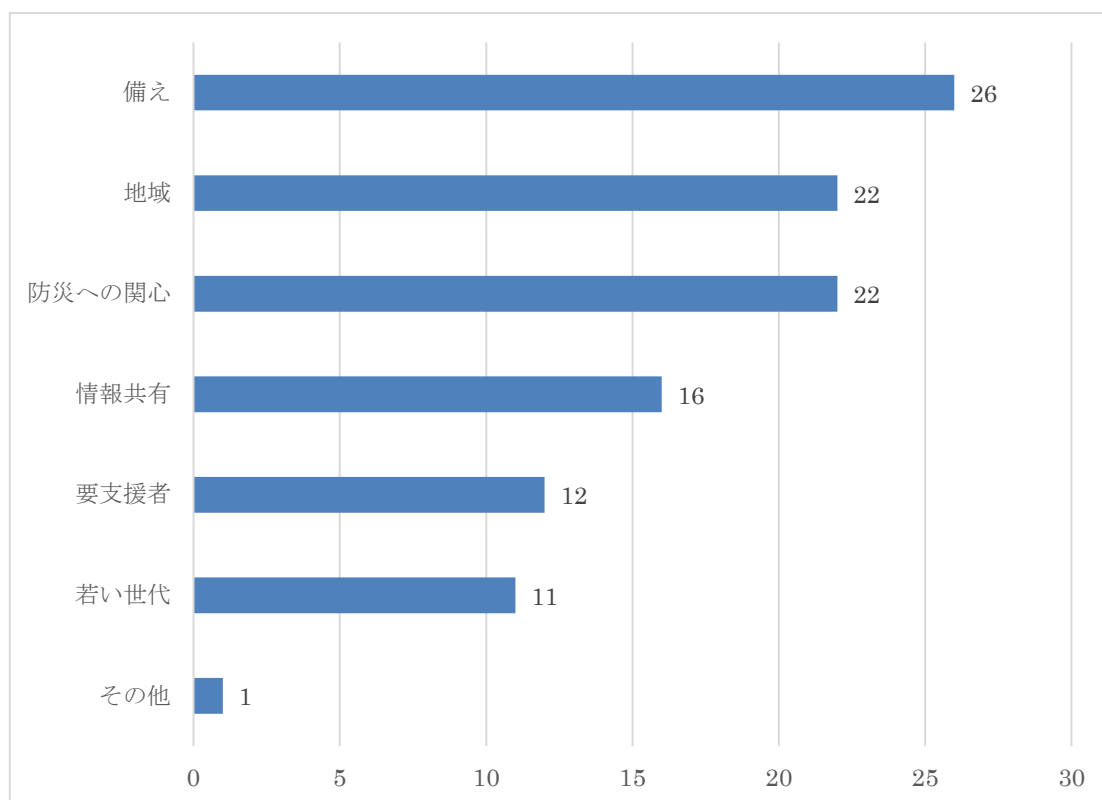
- ・第 1 回会議：平成 28 年 10 月 30 日（日）
テーマに関する説明（地域振興課、建設課、健康福祉課）
各分科会にて議論
- ・第 2 回会議：平成 28 年 11 月 20 日（日）
各分科会にて議論、「改善提案シート」の記入
ナビゲーターの参加
- ・第 3 回会議：平成 28 年 12 月 11 日（日）
各分科会にて議論、「改善提案シート」の記入
ナビゲーターの参加
- ・第 4 回会議：平成 29 年 1 月 21 日（土）
「改善提案シートの中間とりまとめ」について各分科会にて議論
「意見提出シート」の記入

2. 各委員の考える「課題」の概要

第2、3回会議で各委員が「改善提案シート」を用いて、「防災」に関する現状の課題は110項目挙げられた。

それらを大まかに分類すると以下のようなようになった。

「現状の課題」性質別とりまとめ（第3回終了時点）



大きくは7項目、具体的な課題は19項目に分類された。

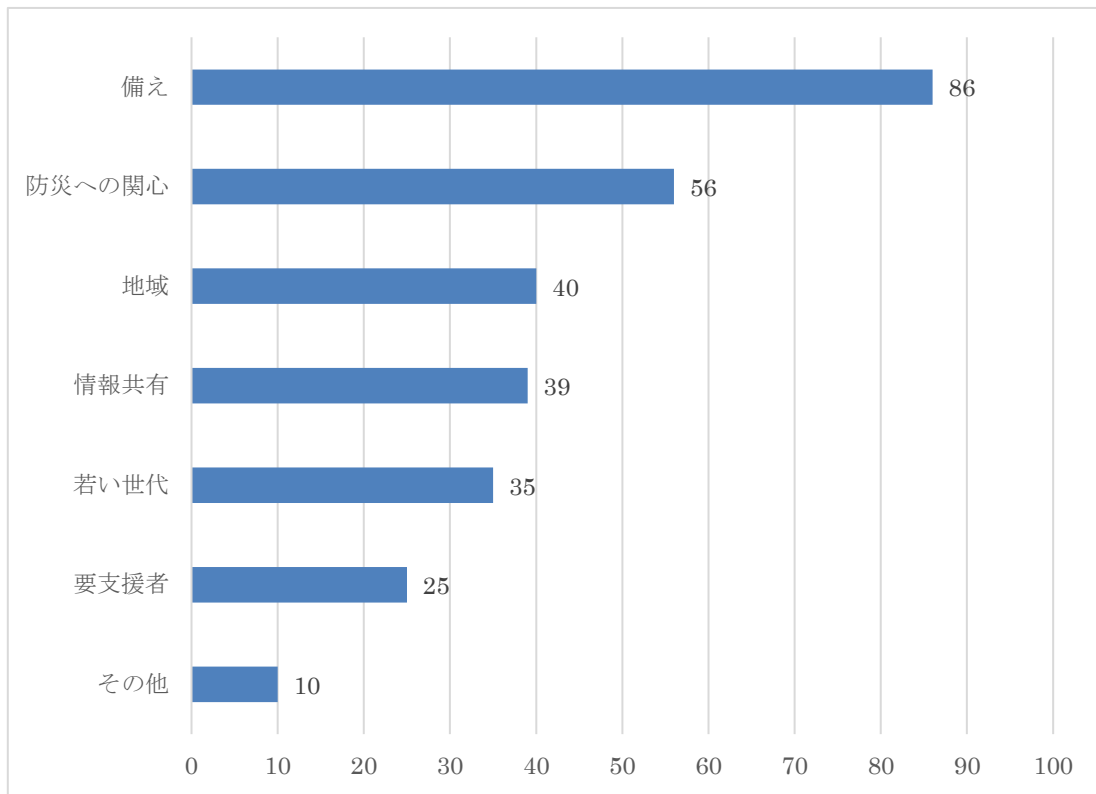
これまで防災のことをあまり考えていなかったという意見が多く出た中で、まずは備蓄などの備えをする必要があるという提案が最も多かった。

また、高校生が参加していたことで、若い世代の関わりについての議論があり、改善提案にも書かれていたことが特徴的だった。

第4回会議で各課題についてさらに議論を深め、議論を踏まえて各委員が「意見提出シート」を記載した。

「意見提出シート」を加えた各委員の意見内容を分類すると、以下のようなようになった。

「現状の課題」性質別とりまとめ（第4回終了時点）



すべての項目において第3回終了時よりも非常に多くの項目が記載されていた。過去にあまり大規模な災害のなかったため、防災へのリアリティが持ちにくかったところが、協議会の場で議論することによって意識が高まったことが記載量の多さにもつながったと推察される。

防災を考えるうえで地域コミュニティは切り離せないものという意見も多く出た。

日常的な地域のつながりの延長線上に防災の視点があることを協議会のメンバーの多くが感じたのではないだろうか。

3. 委員からの改善提案概要

(1) 備え

課 題		何をどの程度備蓄してよいか分からない、備蓄ができていない
改善 提案	個人の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食料と水を3日分用意する。 ・ 食料だけでなく、生活用品の備蓄もする。 ・ 備蓄の見直し、点検をする（東京防災を参考にする）。 ・ 家族の分だけでも、家庭で備蓄する。 ・ 家の中だけでなく車の中の備蓄も行う ・ 急しきや暇がないことを言いわけにせず、何を備えたらいいか SNS で調べたり実際に備蓄したり行動に移す。
	地域の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近所の人と助け合い、お互い不足がないように分け合う。 ・ 回覧板などを使い、どの程度の量が必要なのかを住民に教える。 ・ 地域で保管している備品を有効活用した活動をする。 ・ 公民館にも備蓄をする。 ・ 公民館など公の場に備蓄する物を話し合う。 ・ 毛布や簡易トイレの準備。
	行政の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ ドリーム祭の一角に、防災グッズの展示・販売スペースを作り、町民の目に入るようにする。 ・ 消防団にも協力を仰ぎ、消火器の他、備蓄品の説明をしたらいいのではないか。 ・ どこにどの程度の備蓄があるか地域住民へ知らせる。 ・ 取り組みやすい備蓄について、町からも情報提供してもらい、各家庭の備蓄率を高める。 ・ 流通在庫備蓄（企業から商品を買取った上で在庫としての保管を委託する）を進める。 ・ 備蓄品などの購入の補助を検討する。

課 題		防災訓練が十分に実施されていない
改善 提案	個人の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災訓練へ参加し、実災害に活かす。 ・ 地震はいつ発生するか分からないので、様々な場所で発生することを想定しておく。
	地域の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ 老人会等の地域行事に合わせて防災訓練を実施する。 ・ 訓練内容のチェックや実施状況の統計をとる(行政のサポート)。 ・ ミニデイなどの地域行事に防災の観点を少しずつ(年1回くらい)取り入れていく。 ・ 道路愛護と合わせて防災訓練を実施する。 ・ 自主防災訓練を平日と休日両方とも実施する。 ・ 消防団の防火訓練時に一緒に防災訓練を行う。 ・ 訓練を行う時、地域の役員で終わらせずに住民全体を巻き込む。
	行政の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施状況の統計をとる(行政が主体となって実施)。 ・ 防災訓練を平日と休日両方ともに実施。 ・ 1日、防災訓練の日を決め、時間は教えず、抜き打ち状態で行ったら良いのではないかな。 ・ 一度、全町単位の一斉訓練をやってみるのはどうか。
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校、職場では防災訓練は行うが、個人的には何もしていない。 ・ 勤務先で「火災発生」に出会い、消火器を持って走っただけで何も役立たなかった。いざというときの行動を再確認する。

課 題		家屋の災害対策が不十分
改善 提案	個人の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ 台風による二次災害を考え、瓦止めをする。 ・ 家屋の危険箇所を点検して改善する。 ・ 家の中でどこが安全かをあらかじめ把握しておく。 ・ 家具食器棚、大きい物の固定。
	地域の実践	
	行政の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難所の維持管理を徹底する。
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・ とにかく家が古いので心配が多いが、資金の面で備えができない。

課 題		避難の徹底や連絡網など災害に備えた連携体制が十分に構築されていない
改善 提案	個人の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人の身の安全と近所の人々の安全確認をする。 ・ もしもの為に、家族での行動の取り方を話し合う。 ・ 家庭内で、いざというときの連絡方法や避難所、避難経路の確認など、家庭内ルールを作る。 ・ 仕事をしているため、いざという時の子供との連絡をどうするか確認。 ・ 自分の属する区で、みんなで避難場所を確認し、避難倉庫の中身を確認するなどのイベントを提案してみたい。
	地域の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人情報のこともあるので、どこでもできるとは限らないが、最低単位でもお互いが納得して、連絡体制をつくっておく。 ・ 隣組や門内（かどうち）の組織を利用する。 ・ 区同士で連携する。 ・ 災害の状況に応じたケースを想定する。 ・ 個人の発電機や井戸水などを地域で共有できるように話し合いの場を持つ。 ・ 隣組単位で安全確認をする。 ・ 地域住民の把握に努める。 ・ 防災訓練をして、避難所での役割を確認する。
	行政の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町で「防災の日」を設ける、事業を行う。 ・ 町から県へのスムーズな連絡、対応をする。 ・ 他地域の防災システムと連携する。 ・ 自治会や学校区の単位で安全確認できるように働きかける。 ・ 区長会等を利用して連絡網をつくるよう働きかける。

(2) 防災への関心

課 題		災害への危機感や防災に対する日常的な関心が低い
改善 提案	個人の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政の啓発活動などをチェックして、行動のきっかけにする。 ・ 防災センターに行ってみる。 ・ 安全だから大丈夫と思わず、若い人も自分や大切な人を守るために防災について考える。

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 場がないことを言いわけにして、結果何もしてない。場がない中でも自分で出来ること探したりコミュニケーションを大事にする。 ・ 海外、国内の地震のニュースがあった場合、他人事と思わないでその時々話し合う。 ・ 実際に災害にあった時、自分がどのように行動できるか、再確認する。
	<p>地域の取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校での防災訓練の取り組みなどを地域住民へ呼びかける。 ・ 三原市のように自主防災会全体で防災訓練を試みる。 ・ PTA やミニデイをまき込む。 ・ 少しでも多くの方が防災について危機感を持つようお互いに声をかける。 ・ 知りたいと思わせるきっかけづくりをする。 ・ 防災に関連した講演会などを地域住民へ告知する。 ・ 消防の見守り等の日頃の動きから、防災・防犯につながる等のコミュニティ作り。
	<p>行政の取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民全体に呼びかけて、訓練、援助の方法などの講習を開催する。 ・ 重大な災害についてシミュレーションする。 ・ 強制的でもいいから防災についての話を聞く場、意見が言える場をつくる。 ・ 熊本地震の状況をもっと詳しく示す。 ・ ドリーム祭りなど地域の行事で、防災についてのプログラム（実際の災害経験者、行政担当者による講演会など）を組み込む。 ・ 実際に最近の災害の対応に当たった行政担当の人や、前防災担当大臣の話はとても興味深かった。このような話を町民が直接聴く機会が増えれば、主体的な意識が生まれる大きなきっかけになると思う。
	<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「災害は起きないだろう」という思い込みを無くす努力が必要。 ・ 文字では色々書いたけれど自分自身の意識はやはりまだ低い。

課 題		避難場所や避難所を把握していない
改善 提案	個人の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大刀洗町のハザードマップを見て避難場所や避難所を把握し、実際に歩いてみる。 ・ 避難所は2ヵ所以上確認しておく。 ・ 日頃からどこに集まるか家族で決めておく。
	地域の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難所を日常的に有効活用する。 ・ 年に1回でも回覧板で住民に伝える。
	行政の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報の共有を徹底する。

課 題		日常生活の中に防災が組み込まれていない
改善 提案	個人の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な物事とのつながりを考える。 ・ 今回学んだことを友達に伝える。
	地域の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公民館清掃＋備蓄品の点検など、日ごろの地域の活動に防災を結びつける。 ・ 年に1、2回ある道路受渡の時の集まりで災害の事について話をする。
	行政の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ ミニデイを有効利用する。 ・ 小学生や中学生有志との熊本視察の検討。

(3) 地域

課 題		地域によって、家族構成がわからないなど、つながりが希薄なところがある
改善 提案	個人の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 積極的にコミュニティに参加していく。 ・ 自分の隣組を知る、区長など役員を知る。 ・ 隣近所だけでも把握したい。 ・ 井戸端会議を開く。 ・ あいさつから始まり、近所にどのような人達が住んでいるか等、情報を集める。
	地域の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近所の人と関われる場をつくる。 ・ 地区の会合で地域内のコミュニケーションについて話し合う。 ・ 転入者へ情報発信する。 ・ 世代間を超えたコミュニケーションのとりやすい環境作りに取り組む。 ・ 地域でのコミュニケーションが取れる優れたリーダーが必要。

	行政の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人と地域をつなぐための情報発信をする。 ・ 校区、隣組単位で定期的な話し合いの場を持つよう取りまとめ行う。 ・ 公民館の活用方法を周知する。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三原市小坂町の地域づくりの話が非常に印象深く、日頃から地域に関わることが大切だと実感した。 ・ 個人情報の保護により困難なことが多い。

課 題		地域によって防災の取組みに差がある
改善 提案	個人の取組み	
	地域の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域間でコミュニケーションがとれていれば、差がなくなるのではないだろうか。
	行政の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 積極的な取組みをしている自主防災会の取組みを広める。 ・ 西原地区自主防災会のような先進的な活動をしている団体を優先的に補助をする。

課 題		転入者や共同住宅の居住者と古くからの居住者間でのコミュニケーションが不足している
改善 提案	個人の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい入居者が来た時には自分から話しかける。町内会に加入する。 ・ 子供と一緒に地域のイベントに参加する。
	地域の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 隣組、賃貸、それぞれのコミュニティと価値観を共有できるよう意見交換の場をつくる。 ・ 共同住宅にも回覧板を回す。 ・ 伝統行事の継続のほか、転入者に対して接点が増えるようなイベントを開催し、コミュニティに入りやすい環境を作る。 ・ 転入者に対して区長や隣組長が説明の時間を作る。
	行政の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 区長等を介して地域の情報を伝える。 ・ 町の行事などを増やして、多くの人との関わりを持つ場をつくる。

(4) 情報共有

課 題		地域の防災情報を知らない
改善 提案	個人の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族や知人に知っている情報を話す。 ・ 普段から防災情報の入手先を確認しておく。 ・ 何が分からないのかを行政に伝える。 ・ 地域コミュニティに参加して、情報を得る。 ・ 広報たちあらいや町のホームページ等をチェックして、行政の出す情報をいち早く収集する。
	地域の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 区長を中心に話し合う。 ・ 地区の会合で住民に報告する。 ・ 地域ごとに地域内の防災についての情報を収集する。 ・ 転入者への情報提供。
	行政の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町の取組についての目的達成率を設定する。 ・ 地域の話し合いに行政職員も参加する。 ・ 災害の可能性について具体的な提案をする。 ・ 広報誌や看板等で積極的にアピールしていく。 ・ ハザードマップを回覧板などで回す。 ・ 広報たちあらい特別号として防災ブックを発刊(東京防災のイメージ)。もしくは広報紙に「防災コーナー」を作る。 ・ 情報伝達について地域にアドバイスする。 ・ 町のホームページの防災コンテンツをもっと充実させ発信する(ホームページをスマートフォンで開いても防災のカテゴリーが出てこない)。 ・ 防災情報を統一して拡充する。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「東京防災」が話題となった。大刀洗町で製作するならば広報誌の同様の規模のものを通常の発刊手順で定期的に提供できるのではないか。 ・ 防災についての情報を町民がどれぐらい把握できているのだろうか。

課 題		過去の災害の記憶が風化しかけている
改善 提案	個人の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事あるたびに昭和 28 年の台風被害について考える。 ・ 子どもに災害に関する知識や経験を話す。
	地域の取組み	
	行政の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過去の災害写真等、イベントの時に展示する。 ・ 経験談の募集、講話者の育成。

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報たちあらいへの掲載。 ・ 昭和 28 年の水害の事を学校で取り入れる。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昭和 28 年の水害について義父に聞いた事を家族・友人に話した。

課 題		人によって得られる情報の量と質に差がある
改善 提案	個人の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ 天気予報や地震情報のメールが届くようにスマートフォンで設定しておく。
	地域の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周りの人と情報を確認し、地域で情報を共有する。
	行政の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災無線や防災メールなど、住民に伝える工夫の検討。 ・ 時系列で考えたマニュアルを作る。

(5) 若い世代

課 題		若い世代と地域の行政のつながりが希薄
改善 提案	個人の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校生同士で話し合う。 ・ 自分達が地域に対してどのように力になれるか考える。 ・ 地域とコミュニケーションをとる。 ・ どのようなボランティアがあるかを把握する。
	地域の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校生のボランティアを募集する。 ・ 若い人が動きやすくなるよう情報共有に努める。 ・ 交流の場を増やす。 ・ 強制的に若い世代が参加する場を設ける。 ・ 行事に中高生を巻き込む。 ・ PTA、子供会の集まりをもっと利用する。
	行政の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ この取組みを中学校で取り上げてもらう。 ・ 学校単位でイベントを行い、子供と親と一緒に参加する機会を設ける。 ・ 若い人も動きやすい情報発信と地域コミュニティを構築する。 ・ 町外に出ている高校生を活用できるよう、高校生を対象としたボランティア制度を設ける。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自主防災訓練でも平日と、日曜と、簡単なものでも両方が参加できたりすれば、少しずつ裾野が広がっていくのではないかな。

	<ul style="list-style-type: none"> 町で若い世代が集約される大刀洗中学校の生徒に対してアプローチする機会があれば効率的。
--	--

課 題		地域の子供、学生の把握をしていない
改善 提案	個人の取組み	<ul style="list-style-type: none"> 学校の行事に参加する。
	地域の取組み	<ul style="list-style-type: none"> 学校の行事に関わる。 小、中学校の運動会に保護者以外も行きやすくなるような仕掛けを作る。
	行政の取組み	<ul style="list-style-type: none"> 町外に出ている高校生や大学生と交流できる場の提供。

課 題		子どもたちに対する防災教育をさらに増やす
改善 提案	個人の取組み	<ul style="list-style-type: none"> 子どもとの会話で災害についての話題を出す。 過去の災害の話をお子にもする。災害はいつ起きるか、どこで起きるか分からない、どこでも起きる可能性があるという事を親子ともに意識していく。
	地域の取組み	<ul style="list-style-type: none"> 学校の避難訓練に地域の人も参加する。
	行政の取組み	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練以外にも防災についての授業をする。 小・中学校で防災に関する作文コンクールをするのはいかがでしょうか。
その他		<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの方が防災に詳しい。 町には中学校が1校しかないので、中学生を巻き込みやすいのではないかと。

(6) 要支援者

課 題		要支援者の把握ができていない
改善 提案	個人の取組み	<ul style="list-style-type: none"> 自分の住んでる地域の住民情報を確認する。 民生委員とコミュニケーションを増やす。
	地域の取組み	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者も参加しやすい行事を企画して接点を増やす。 区が要支援者の名簿を作る。
	行政の取組み	<ul style="list-style-type: none"> 要支援者となりうる人が自己申告しやすい環境を作る。
その他		<ul style="list-style-type: none"> 自分自身、町外で仕事をしているので関わりが少なかったと反省している。

課 題		要支援者の支援体制が整っていない
改善 提案	個人の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者も含め、個人の体力をつける。 ・ 近所の人を把握しておく。 ・ 要支援者へ日ごろから積極的に声掛けをする。
	地域の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時、高齢者の移動をサポートする。 ・ 若い人の協力を得る必要がある。
	行政の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町全体での災害訓練をする。 ・ 現在、社会福祉協議会が行っている「命のバトン」を拡充する。

(7) その他

課 題		災害後に大量のゴミが出る
改善 提案	個人の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日ごろから不要な物を捨てる。
	地域の実践	
	行政の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仮置場を早めに住民に知らせる。
その他		

(8) 自由記載概要

<消防団について>

- ・ 消防団の重要性を初めて知った。消防団の活動への理解が必要だと思った。
- ・ 時代に合った消防団の体制作り。若い人やOB等との連携を考える方が良い。
- ・ 会社でも、防火管理者として防災について一番気を付けている。消防団に長く勤めて、災害に対しては気を付けている。
- ・ 消防団活用の見直し：地域に密着した団体（ボランティア）なので、団員育成を考えるべき（補償の面も含めて）。
- ・ 消防と町が主催して、年に1回防災の日を設ける。その日に出来る限りの町民を集めて、防災のシミュレーションを行う。また、防災講話を行い、町民主体の防災意識を高める。その日を設けることにより、大刀洗町は西国一の防災の町となることを目標としたい。防災の日は、町のボランティア組織、小郡ライオンズクラブ、みい青年会議所、ソロプチミスト、商工会青年部、農協青年部、消防団等を巻き込むことにより、より大きな動きとなると思う。
- ・ 益城町における消防団員の活躍が被害を少なくしたとの事を知り、地区の消防が低下していることを強く感じた。昔は消防車（小型）があり、消防団員が月一回消防車を作動させていたが、今はなく防災意識も薄れているのではないかと。

<その他防災について>

- ・ これからは、災害が起きたときのことを考えていこうと思う。机の下にかくれたり（地震）、ハンカチで口をおさえてかがんで移動（火災）等の命を守る行動の確認、シミュレーション、イメージ作りを自分でしていく。
- ・ まずは身の安全、近所の安否、区の中での助け合いから始めていく。
- ・ 避難所運営のマニュアル（行政）がない、早く作成すべき
- ・ 行政をあまり頼らず、まず地域、個人で対応する、を基本とする。
- ・ 地域の神社や寺などを使って、防災グッズの即売会（どんなものを買っていいかわからない人が多い）。
- ・ 防災は自助から。
- ・ 思い立ったら、すぐ行動!!!
- ・ 東京防災の大刀洗町版があると備蓄等の災害シミュレーションがしやすい。
- ・ 天災、人災、色々起こりうるという事を頭の中に意識しておくこと、知っているとは知らないでは全然違う事だと感じた。また、住民の意見を聞く事は情報量が増えて良かった。
- ・ エリアメールが届くのが、大刀洗は一番遅い。
- ・ 災害が発生する可能性は大刀洗町にもあると思う。しかし、防災の意識は低いと言うのが一般的な意見。もし、何かあった時は共助で私も協力したいと思う。ただ、今の段階では、行政が色々情報発信して町民に意識高揚を図るといったリーダーシップ的なことをしてもらい、成長しながらよりよい共助もできるようになりたい。
- ・ 防災だけではなく、それにつながる防犯にも不安がある。

<住民協議会全般>

- ・ 対人関係を築くことでたくさんの事を解決することができる。
- ・ 町を良くしたいと思う方々と行政の方々と話すこの協議会は、とても貴重な場だった。これまで選挙でしか関わりがなく、これからの町づくりについて興味はあったが、なかなか機会がなかった。また機会があれば参加したい。
- ・ 年を重ねていくと、何事にも興味が少なくなっていく中で今回の住民協議会参加はとても有意義なものとなった。ただ、この意見シートに関しては、書くことが苦手になりまして空欄ばかりですみません。

4. 最後に

住民協議会に参加して、早速備蓄を始めた人や避難所の場所を確認した人、今は自治会に入っていないけれど地域を知る必要があると考え区長さんに会って話を聞いた人など、多くの変化が起きている。

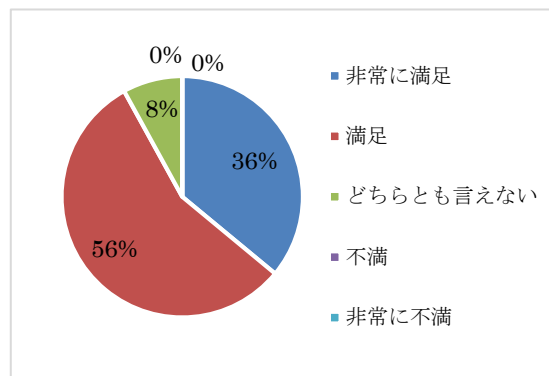
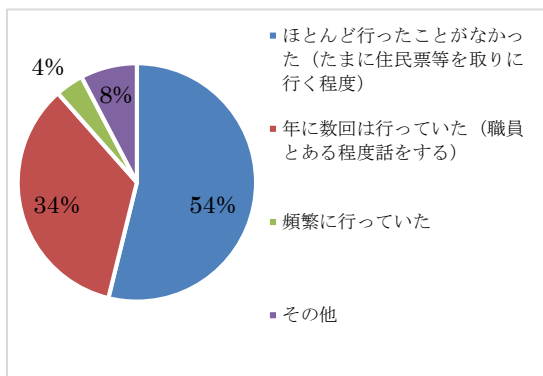
行政の防災に関する取組みも、必ずしも積極的ではない、役場全体の危機感もそれほど高いわけではないと感じられた。今後は、どこで大規模災害が起こるかわからないという気持ちを役場も住民もみんなが感じておくことが重要ではないだろうか。

協議会の委員は第1回から数えて150名ほどになったと聞く。行政としてもこの150名の今後の「使い方」を是非とも考えていただき、この取組みがさらに全国に誇れるものになるよう私たちも考えていきたい。

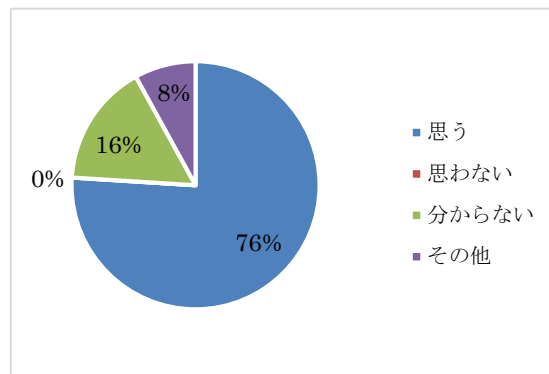
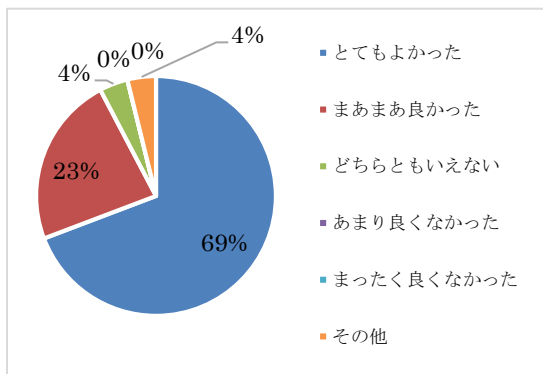
5. 付録：アンケート結果

住民協議会の最後に実施したアンケートの結果を下記に示す。

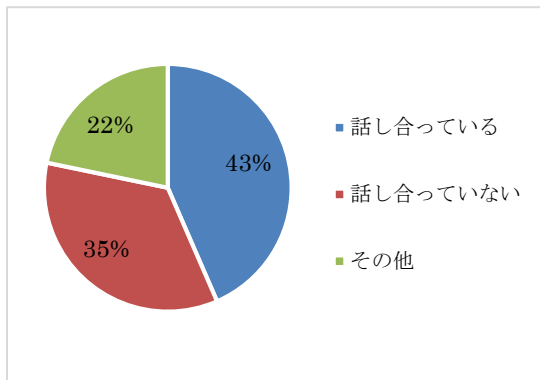
- ① 住民協議会に参加する以前に、大刀洗町役場とどの程度の関わりがありましたか。
- ② 住民協議会に参加してみて、いかがでしたか。



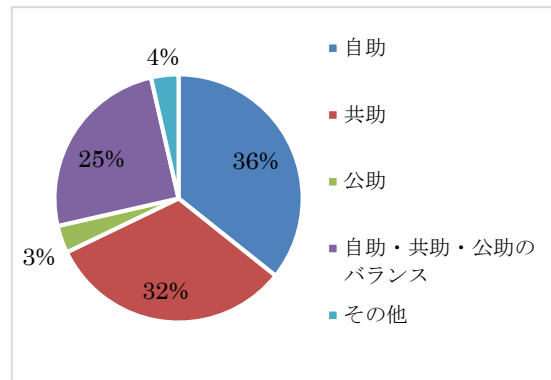
- ③ 今回のテーマ「防災」は、住民が考える内容としてどう思われますか。
- ④ ご自身の身の回りで、災害は発生すると思いますか。



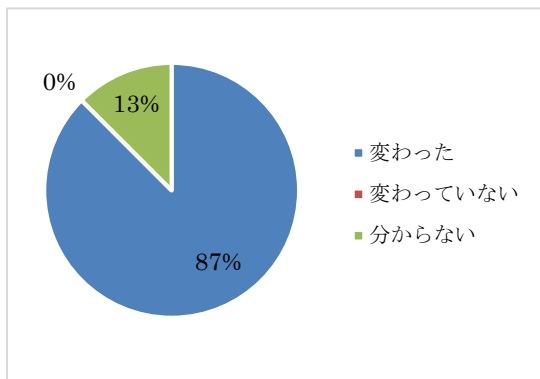
⑤ 災害について、身近な人と話しあっていますか。



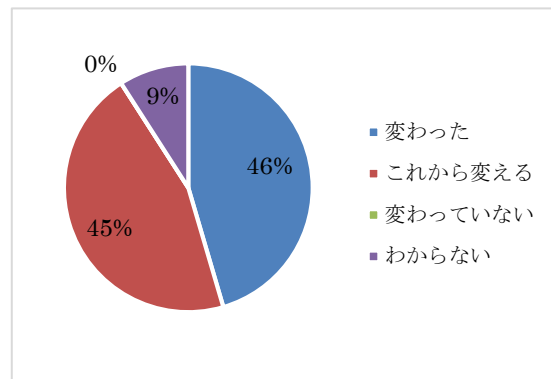
⑥ 防災は自助・共助・公助のうち、どれに重点を置くべきだと思いますか。



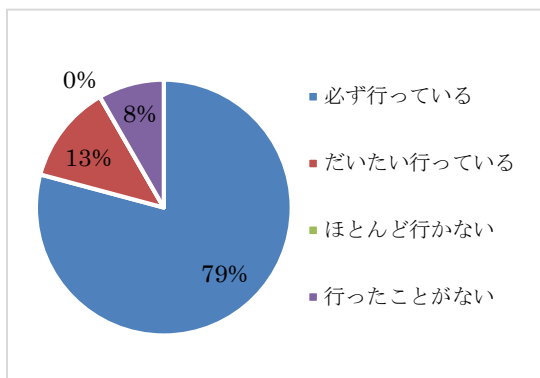
⑦ 住民協議会に参加したことで、意識に変化はありましたか（防災や町政に関すること等）。



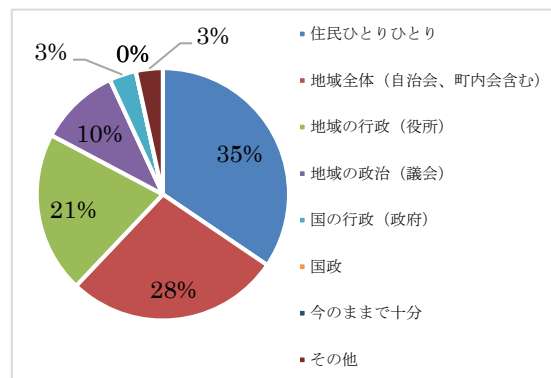
⑧ 住民協議会に参加したことで、行動に変化はありましたか（防災や町政に関すること等）。



⑨ 選挙の投票に行きますか。



⑩ 大刀洗町をより住みやすくするために、特に誰が主体的に行動することが必要だと思いますか。



<⑦「意識の変化」の具体事例>

- ・ 各委員の意見を伺うことで、いくつかの意見の隔たりの大きさに驚き、コミュニティの中で共生する為には日頃のコミュニケーションが非常に重要であることを認識した。
- ・ 行政の立場になって防災を考える事が出来た。
- ・ 家の周囲等に気をくばるようになった。
- ・ 被災した地域の情報を見るようになった。
- ・ 住民として、役目もあると自覚した。
- ・ 今まで以上に備蓄の大事さを思いました。
- ・ 町についての防災など考えたことがなかったが、高校生のような若い世代も何かできることがあり、参加することが必要だという点。
- ・ 地区行事には出来るだけ夫婦で参加する事とし、考えや情報を共有して家として地域にとけ込んで行きたい。
- ・ 町への気持ちが強くなった。

<⑧「行動の変化」の具体事例>

- ・ 仕事場で防災の話が出たので資料を見せた。
- ・ まだまだ少しですが、防災について、家族と話すようになった。
- ・ 町の配布物をきちんと見るようになった。
- ・ まだ備蓄品を用意していないのでこれから準備していく。
- ・ もっと積極的に発言し働きかけるべきだと感じた。
- ・ 車を駐車するのに頭から入れずに必ずバックで駐車する。イザ!!!という時出やすい。
- ・ 車の中に運動靴や少し食料も置いておく。
- ・ ハザードマップを見て確認した。
- ・ 周りの人に話題として上げてみる。

<その他感想等>

- ・ とてもいい話しが出来たと思う。
- ・ 構想日本のスタッフの上手なリードによって、皆さんの貴重な意見を伺うことが出来ました。住民が町政を支え、相互に助け合えるコミュニティーを構築するという視点を忘れないようにします。
- ・ 今回とりまとめた内容について町がどのような対応をしたか広報等できちんと明記してもらえるとうれしい。どんなテーマ・内容でも「コミュニケーション」が付いてきます。より良くなるように自分でも努力が必要だと思いました。
- ・ 意見交換は大切だと思った。分科会で行政の立場として発言する方がいたらよいのではないかと思った。
- ・ テーマが大きいのので、考える方法が難しいのでは。

- ・ これをチャンスとして、私の防災意識を向上させて、子・孫に伝えていきたいと思います。
- ・ 色々な意見が聴けて、考えられて良かったです。
- ・ 身近に感じる事が少し薄いような気がする。
- ・ 毎回の提出シートが思ったようにまとめられず残念でした。
- ・ もっと時間が欲しかった。
- ・ 色々な世代の方と関わることができて、とても刺激的だった。
- ・ 考える機会としていい体験になり、こういった場をもっと若い世代の人に体験していてもらいたい。
- ・ 様々な年代の人とコミュニケーションがとれて良かった。

5. 平成 28 年度住民協議会参加者

第 1 分科会		第 2 分科会	
分会長	中島 栄作	分会長	藤野 直人
副分会長	遠藤 美恵子	副分会長	山田 富江
委員	空閑 花苗	委員	刈茅 由理恵
委員	堀田 美波	委員	木村 修
委員	三浦 智子	委員	永富 佐織
委員	中川 亜美	委員	中松 昭子
委員	古賀 太喜	委員	平田 美和子
委員	久保山 健治	委員	濱崎 孝弘
委員	矢野 英一	委員	山本 忍
委員	白坂 剛基	委員	平山 菊江
委員	平田 一広	委員	井手 英子
委員	大石 純	委員	原 久雄
委員	平井 督二	委員	秋吉 隆一郎
委員	平城 英子	委員	高木 弘子
委員	中村 敦子	委員	白水 美代子
委員	堀内 律子	委員	白石 正三郎
委員	白石 剛敏	委員	今村 久雄
委員	四ヶ所 清治	委員	青木 優佳
委員	田原 知渚	委員	村岡 慶介
委員	新町 美法		

構想日本

<コーディネーター>

- ・伊藤 伸 (構想日本 総括ディレクター)
- ・小村 雄大 (会社員、元内閣府参事官)

<ナビゲーター>

- ・河野 太郎 (衆議院議員、前防災担当大臣)
- ・山中 光茂 (医師、前三重県松阪市長)
- ・佐木 学 (広島県三原市小坂町防災会会長)
- ・辻本 陽琢 (内閣府 (防災担当) 参事官補佐)